

令和2年3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第1部会)

区分	内容
テーマ・事業名	課題解決きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算 1,600千円】
事業目的・概要	「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりのために、地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けた、まちづくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>(1) 土づくりワークショップの定期開催による生ゴミ減量 【にいがた農えん隊】 開催日：8月30日 参加者14名、11月8日 参加者6名（+こども1名）、3月6日（中止）</p> <p>(2) 新津川ふるさと還りプロジェクト 【新津東部コミュニティ協議会】 開催日：10月13日 参加者 ワークショップ約150名 点灯式300名以上</p> <p>(3) 秋葉山分岐点案内図設置事業 【小口遊林倶楽部】 案内図2枚、方向表示板5枚</p> <p>(4) 地域の宝探し 秋葉ひなめぐり 【小須戸コミュニティ協議会】 実施期間：2月1日～3月8日（コロナウィルスにより3月4日～8日中止）</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>(1) 土づくりワークショップの定期開催による生ゴミ減量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰も簡単にできる土づくりから野菜づくりを体験することによって、生活の中に「農」を取り入れようという関心をもつ人を増やす。家庭で出る野菜くずを使った「土づくり」を学び、実践のための「野菜栽培キット」を持ち帰ってもらい、野菜を育ててもらう。その成功体験から、継続して次の実践に移っていく仕組みを作る。 ・ 過去に土づくりを体験している参加者が多数おり、子どもを連れた参加者が多かった。既に幼稚園などで実践して体験している子どもも居て、参加者の多くが幼稚園などでの指導や体験農園、アグリパークでの作業、農えん隊の活動に興味を持っており、中にはワークショップ当日に農えん隊に加入した人もいた。

	<p>(2) 新津川ふるさと還りプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋葉区出身の彫刻家・原田哲男さんの協力を得ながら、新津の歴史文化を素材とした灯籠を、次世代を担う子どもたちと共につくり、新津川のほとりに並べ、「秋のふるさと風物詩」としての賑わいつくりを目指す。 ・当日は、台風の影響で新津川で灯籠を流すことはできず二小体育館での実施となったが、原田哲男さんがデザインされた素晴らしく大きな灯籠と、当日参加された方達の作成された300個を超える灯籠と色とりどりのキャンドルに灯りを点灯することができた。 ・秋葉区に住む赤ちゃんから子ども、学生や若い人たち、パパママ、おじいちゃんおばあちゃんまで、みんなで楽しめるような事業を行ってほしいと思う。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募団体とのかかわりがうまくなかった点が見られたため、自治協と応募団体が方向性を共有し、採択時点で協働を理解してもらい連携をとる事が必要と思った。 <p>(3) 秋葉山分岐点案内図設置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋葉山から続く小口の里山には数々の歴史的・文化的遺産があり、近年では遊歩道の整備や間伐、除草などにより、秋葉山を訪れる人が年々増加している。 ・より多くの人を秋葉山に呼び込み、気軽に安心して山歩きをしながら歴史を学び、健康増進につながるような身近な秋葉山にするため、案内標識等が必要。 ・地区の歴史と自然を生かし地域活性化を図る事業を実施し、所期目標を達成できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、看板・方向指示標識を活用し、散策ルートを如何に区民、市民等に紹介し、この事業成果を活かしてことが大切と思われる。 <p>(4) 地域の宝探し 秋葉ひなめぐり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで小須戸地域の独自性豊かな冬期間のイベントとして実施しており、4年目となる今回は小須戸地区だけでなく新津地区でも実施した。 ・小須戸地区では本町通り商店街など約30か所に展示、新津地区では「鉄道の街にいつ ひな・お宝めぐり」と題し、商店街の約20か所で貴重なお宝を展示した。 ・地域内外から多くの参加があり、地域のおもてなしの意識も生まれてきた。 <p>【課題（全体）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きらサポの事業が、1つの提案団体のための事業ではなく、市民一般に浸透していく事業であることが大切である。 ・そういう意味で、事業の方向性や関与した（あるいは、関与する）人数などもこの事業の大切な要素である。 ・今後採択するときの基準として、これらの要素を加えるべきである。 ・協働で実施することにより、様々な意見が出され活動の幅を広げることにつながった。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	大いに笑い、脳を活性化して認知症予防 【事業費予算 545千円】
事業目的・概要	楽しく体を動かすことで、自分自身で脳と体の健康を保ち、認知症を予防する。自分自身で健康を保つ方法を講演から学び、また、楽しく体を動かし、大きな声で歌うことにより、脳の活性化を促す。参加者が一緒になって行うことで、その効果が増すことが期待される。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	「笑って、歌って、みんなで楽しく健康づくり」 開催日時 令和元年11月28日(木) 午後1時30分～ 会場 秋葉区文化会館 参加者数 253名 内容 第1部 秋葉区感謝の集い 第2部 笑いヨガ(講師:村山 昭子 氏) 第3部 合唱(ピアノ演奏:阿部 恵子 氏)
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>【評価】</p> <p><第1部 感謝の集い> ・第1部として「秋葉区感謝の集い」を開催したため、自治会長などの参加をいただくことができ良かった。また、受章者とイベント参加者、双方ともに地域の様子を知ることができたことは良かったのではないかと。</p> <p><第2部 笑いヨガ・第3部 合唱> ・笑いヨガ、合唱等参加型企画。参加者には自然な同調参加を感じた。 ・笑いヨガは、講師の導きで全員が気持ちよくリズムをとって体を動かし、会場の空間に笑いが弾け、心身ともリフレッシュした。 ・他の区で活躍している講師から、地元の大きな会場で実施することができて良かった。 ・笑いヨガを多くの方たちに体験してもらい、今後の認知症予防に機会になっていくことが期待できる。 ・笑いヨガでは、会場の皆さんがとても素直に反応されていて、楽しそうだった。 ・笑いヨガは、笑うことによる身体の変化が実感でき、気持ちの高揚にも効果があり、好評だったと思う。 ・「秋葉区感謝の集い」受章者が登壇し、一緒に合唱する様子はとても好評だった。 ・合唱では、ピアノの生演奏で懐かしい歌をステージと会場が一つになって歌えて良かった。 ・笑うこと、歌うことで健康が維持できることを参加者から実感していただいた。 ・多くの方に来場していただき、楽しく笑い、歌い、体を動かしていただけたので、非常に有意義な会になったと思う。 ・合唱も昨年に引き続き好評だった。ピアノ演奏も素晴らしく、進行のリードと男性委員との掛け合いもとても良く、参加者の歌声を引き出していた。また、委員全員が一つになって進行できたことが良かった。 ・合唱の歌詞を、紙で配布するのではなく、スクリーンに映し出すことで、みんなが顔を上げて、楽しく歌えた。</p>

	<p><運営・全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で帰られる参加者の姿が結果だと思う。このプログラムは十分に楽しんでもらえたと思う。 ・部会メンバーがタイムスケジュールをもとに阿吽の呼吸でそれぞれの役割を担い、スムーズな運営ができ、メンバーとの一体感と達成感を感じた。 ・「イベント開催」の大きな特徴は、会場全体が一つになり、喜びを共有すること。家に一人であったのでは「共感・高揚感」は得られない。その意味で外出促進事業の目的は果たせたと思う。「きょういく(今日、行くー教育)ところがある」「きょうよう(今日、用ー教養)がある」ことの有難さを高齢者は理解している。 ・高齢化社会の中、認知症予防等の健康維持は共通する課題である。今回の事業は手軽に誰もがすぐできる知症の予防であり、実効性、効率性が極めて高いと評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加された方は、自分自身の健康管理に関心があり、また、常日頃から体操や趣味の活動を積極的に取り組んでいる方が多いように感じた。参加されていない方に如何に関心を持たせ、どう広げていけるのか、地域の茶の間などで取り組めるようPRしていくことが必要ではないか。 ・このイベントを期待しておられる方が相当数おられることを感じた。リピート率は高いが、より多くの方から参加してもらえよう企画・工夫の検討が必要。 ・数年続いた事業で、今回で終了するが、認知症予防という目的は、小規模の地域の茶の間等で継続的に取り組んでいくことが求められる。 ・アンケートを手作業で集計するのは非常に大変な作業だと思われるので、他に効率の良い方法について検討していけると良い。 ・元気なお年寄りが多く参加していると感じたが、実態はどうか。今後の活動材料になるので、アンケートをとるならば、健康度チェックをしたらどうか。 ・外出促進、支援が目的であれば、秋葉区には映画館がないので、「アキハ・シネマ」等で話題になった映画の上映会もいいのではないか。 ・外出促進、健康寿命延伸をテーマとしての開催。同内容、企画のイベントが他団体でも開催されている。行政が企画する事業は、費用対効果をふまえ、横の連携調整等を考える必要があるのではないか。 ・似たような事業が短期間のうちに実施されているので、実施日の変更か内容の変更を。 ・高齢社会とあって、「健康づくり」「認知症予防」「見守り活動」「介護について」等々、市役所・区役所・社協・コミ協その他各機関から同じようテーマが企画されている。そのどれもが、高齢者にとっては貴重な情報源ではあるが、企画のタイミングが集中することがある。どこかの機関でコーディネートしてもらえないものか。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	地域と福祉施設をつなぐ防災時のサポート 【事業費予算 260千円】
事業目的・概要	災害時に協力し合えるよう、地域と福祉施設の顔の見える関係づくりを目指す。 自治協議会がつなぎ役となり、地域と福祉施設が災害時に協力し合えるよう避難の仕方や避難所の運営などについて情報を共有する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	事業化に向けての情報収集 ①すでに、福祉施設と連携して活動している地域(自治・町内会、自主防災組織など)はあるのか確認する。 ②秋葉区社会福祉協議会に、区内に福祉施設を構える社会福祉法人を照会し、地域と福祉施設との関わりについて意見をもらう。
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	【評価】 ・災害時における相互連携協定を締結しているコミュニティ協議会や防災訓練に福祉施設職員が参加している地域を確認できた。 ・災害時に地域と福祉施設が協力し合える関係づくりを自治協議会が仲介するということは大変有意義な活動だと思う。 【課題】 秋葉区社会福祉協議会において、地域と福祉施設との連携に関するアンケート調査の計画があり、その調査結果を受けて、来年度に地域選定を進めていく。 ・福祉施設設置区域の自治会・町内会は施設との連携望んでいるだろうか？ ・地域へのアクションは慎重に進めなければならない。 ・地域と福祉施設との情報の共有の仕方について、災害時に円滑に協力し合えるよう普段からの連携強化ができるとよいと思う。 ・地域と福祉施設がどのような関係にあるのか調べてから動くべき。地域とすでに連携が測れている施設には不信感を持たれたようだ。 ・秋葉区社会福祉協議会と協力しながら、自治協議会として果たすべき役割を詰めていきたい。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	生活交通 【事業費予算 201千円】
事業目的・概要	秋葉区全体の生活交通について協議する。 秋葉区地域公共交通検討会議を開催し、秋葉区生活交通改善プランについて協議する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	・第1回秋葉区地域公共交通検討会議 開催日: 令和元年12月3日(火) ・第2回秋葉区地域公共交通検討会議 開催日: 令和2年1月15日(水)
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	【評価】 ・理想と現実のギャップに頭を抱えつつ、それでも今後3年の計画が示せたことは評価できる。 ・検討会議構成員である警察署から運転免許返納の状況を聞けたり、交通事業者の取り組みなどを聞いたことは有意義だった。 ・2回の検討会を行ったが、具体的な取り組みには至っていない。しかし、公共性がある重要な課題のテーマなので、実績の評価は低いですが、継続して取り組む必要があります。 ・公共交通に関する問題は、将来に向けて自分自身の問題であり、地域の問題であるという意識が薄い状況である。 ・山の手住民バスは全戸配布アンケート実施をし、スタートした結果、収支率が悲しい。住民の利用を求めるには実態を丁寧に周知する必要があると思った。 ・4つの課題を、3つの柱に再構築し、それぞれ具体的な施策を示したことにより、何のために何をいつまでにやるのかが明確になった。 ・地域や関係団体との連携・協力体制の構築を柱に取り上げたことは、地域と協働で取り組むという行政の強い意志を感じた。 【課題】 ・コミ協ごとに環境が違うので、一律ではいけない感じ。まずは、自地域の現状を把握し、あるべき姿を模索したい。 ・地域の方々や隣近所の方々と相乗りできる環境づくりが必要と思う。⇒地域づくり ・タクシーなど利用について、理解するように勉強が必要。そのうえで、啓発が必要。 ・人口が少なく交通機関の利便性が低い地域での大きな課題であるが、収益性・利用率・利便性の向上と停留所の整備等が課題と思う。 ・住民バス運行、デマンドタクシーなど社会実験運行を実施したが、住民の意向が十分に反映されていないため、成功例は少なく、具体的な検討が困難である。 ・公費に頼らない仕組みを住民でつくらないといけない。 ・料金の問題、工程の問題、時間の問題、乗車の目的は？ 駅、施設、買い物、通院。区間設定してモニタリングしてはどうか。 ・地域や関係団体との連携・協力体制の構築は地域ごとの温度差や切実さに大きな差がある。ボトムアップの機運を高めるために、先行例を学んだり、地域との密接な話し合いが大切と考える。
備考	

令和元年度 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第3部会)

区分	内容
テーマ・事業名	あきは子ども大学 【事業費予算 1,000 千円】
事業目的・概要	次世代を担う子どもたちに、秋葉区の特徴や伝統を継続的に体験してもらい、広く周知することで、地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、未来につながる主体的な学びの機会となるよう実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>対象児童 秋葉区内の小学生</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回 オリエンテーション、新津鉄道資料館 & 総合車両製作所見学 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 9月28日(土) 9:30～15:30 ・会 場 新津地区市民会館、新津鉄道資料館、総合車両製作所新津事業所 ・参加児童 18名 ●第2回 弥生の丘展示館見学、まが玉づくり体験、古津八幡山遺跡探索 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 10月19日(土) 10:00～14:30 ・会 場 弥生の丘展示館、古津八幡山 ・参加児童 19名 ●第3回 秋葉区の食材をつかった親子クッキング体験、修了式 <ul style="list-style-type: none"> ・会 場 新津地区健康センター ・参加児童 19名 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回 オリエンテーション、小須戸まちめぐり & 豆菓子工場見学 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 2月22日(土) 9:00～12:00 ・会 場 新津地区市民会館、町屋ギャラリー薩摩屋、内山藤三郎商店 ・参加児童 23名 ●第2回 金津里山での陶芸体験(中止) <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 3月7日(土) 13:30～15:30 ・会 場 金津焼 押味窯 ●第3回 秋葉硝子細工づくり & 新津の魅力かるた体験、修了式(中止) <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 3月21日(土) 13:00～16:30 ・会 場 秋葉硝子、秋葉会館
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加学年を広げたため、これまでは少なかった兄弟姉妹での参加が増えて良かった。 ・普段は一緒になることのない他校の児童と交流できるいい機会となった。 ・学校での地域学習の時間が減っているため、それを補完できたのではないかと。 ・初回の集合の際には児童も保護者も心配そうな顔をしていたが、オリエンテーションの工夫や楽しい体験活動により、帰るときには笑顔一杯になっていた。 ・「秋葉区の宝」について、それぞれ専門の方の協力でしっかりと学ぶことができた。 ・子どもたちにとって区内の全く知らない地域のことを学べ、大人にとっても同様に勉強になることが多い事業だった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整に時間が掛かったことで後期の開催時期が遅くなり、結果として第2、3回を中止することになってしまった。 ・今でもあきは子ども大学のことを知らない先生が多い。校長先生から直接先生方に伝えてもらうなど、もっとアピールすることはできなかったか。
備考	

令和元年度 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(広報部会)

区分	内容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 950 千円】
事業目的・概要	秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協の活動や自治協かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時20分から、30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から) ■スポットCMの放送 20秒×5種類 8月～3月：合計放送本数303本 ■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR 3号/年(運営事業費) 第22号：R1. 7. 15発行、第23号：R1. 10. 15発行、第24号：R2. 3. 15発行 各号29、000部発行し、全戸配布(自治会経由)のほか公共施設等に配置
事業の評価 地域課題の抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ■コミュニティFMを活用 【評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着のコミュニティ放送は、地域の抱える課題を区民の声として伝え、協働の要として地域のまちづくりやより良いくらいを目指す有効な広報手段である。 ・地元放送局を利用したPRにより、身近な情報を秋葉区民に届けることができた。 ・委員が出演することで、身近な人たちを通してリスナーを増やすことになり、自治協の取り組み内容の理解につながった。また、各部会員が主体的に取り組む提案事業の紹介を自分たちで行うことで、事業及びどんなメンバーがどのような活動をしているのか、区民の関心を高めることに繋がった。 ・コミュニティFMと「かわら版」とで、それぞれに番組や記事をPRし合ったことで、相乗効果があった。 ・自治協議会の活動内容、今年度の実施事業を区民に紹介できたと推測する。 ・限られた放送時間の中で効果的なPRが出来ていると感じる。 ・スポットCMに子ども達出演したことで、若い世代の親子が興味をもち、聴いてもらえる機会ができた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・本会議で行政から報告される事項をセレクトし、出演する委員がいち早くお知らせすることで、区民に本会議の様子を伝達する場としても活用したい。 ・聴衆率をあげるため、スポットCMでドライバーへ呼びかける工夫が必要ではないか。 ・イベント告知だけではなく、提案事業会場の中継や体験談などを放送する事ができれば、生の声として参加意欲が上がるのではないかと。 ・FM新津の聴取者の数や状況を把握することが難しいので、効果が確認できない。おおそでも推定できる方法を考案したい。 ・対象者を世代別で分けて、放送を聞いているのかという調査が必要かと思われる。 ・短いCMでどこまで知らせることができるか、全く知らない人が聴いても分かるように伝えるにはどうしたらよいか。

	<p>■かわら版「はつものがたり」の発行</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく、文字数の少ない「かわら版」を目指した。写真を多くして斜め読みでも目に飛び込んできて興味を持てるよう工夫した。 ・イベントだけを掲載するのではなく、秋葉区内の温泉施設やスポットの案内ができ、情報収集に役立つものが出来た。 ・委員の活動内容、活動状況を写真付きで紹介でき、区民の関心を高めることに役立ったと思う。 ・各委員から原稿依頼を快く引き受けていただき、編集の上でも有難い。 ・これまで通り、情報発信を継続して自治協議会の活動を周知していきたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働の要として位置づけられた区自治協議会に求められるのは何かを伝えることができるような企画、トップ会談などを検討したい。 ・秋葉区の良いところや問題点、こんなことを課題にしているという自治協の活動そのものが伝わりづらい。 ・イベントの報告に偏っているのではないか。もう少し早く発行し、イベント告知に使えたらよいのではないか。 ・若い世代の閲覧者を増やすために、SNSも有効に活用して、文字よりも絵や写真の多い紙面となれば良いと感じる。 ・発信のプロ（業者でも識者でも）の力を借りて、より有効な発信方法も検討したい。 ・自治会、町内会を通じて各戸配布しているが、どの程度の区民にどのように読まれているか把握する必要があると思われる。 ・
備考	

令和元年度 秋葉区自治協議会提案事業

○予算

(単位:千円)

項目	内容	金額
提案事業財源		4,616
合計		4,616

○支出(見込み)

(単位:千円)

事業	金額
【第1部会】 課題解決きらめきサポートプロジェクト	1,698
【第2部会】 ・大いに笑い、脳を活性化して認知症予防 ・地域と福祉施設を防災時のサポート ・生活交通	721
【第3部会】 あきは子ども大学	185
【広報部会】 コミュニティFMを活用した自治協議会PR事業	923
合計	3,527